

2020年度 自己点検・自己評価 結果

評価基準：不適切・・・1、やや不適切・・・2、ほぼ適切・・・3、適切・・・4

大項目	番号	評価項目	評価の視点 □：普通レベル ■：加点に値する視点	評価点	分析・対策
I 学校経営	1	学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を策定しており、その目標が教職員に理解されているか	☐ 単年度の組織目標を策定し、それを職員に周知している ☐ 組織目標を設定する際に教職員の意見を取り入れている ☐ 前年度評価を活かし、学校の状況を踏まえた目標である ☐ 組織目標は文章化し、学校以外にも公表している ☐ 組織目標が法人目標との整合性がある ☒ 中・長期の目標も策定している	3	中間評価の後に、全員に目標を提示したことで、再認識できたと考える。中・長期目標については不明な点もある。
	2	組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか	☐ 組織目標を単年度で評価している ☐ 評価結果から次年度の課題を明確にしている ☐ 評価結果を教職員に周知している ☒ 中間評価を実施し、その結果を後期に活かしている	3	中間評価し、一部修正し、後期に活かした。組織に関連する各委員、領域、学年など、目標計画・評価など教員会議で報告することで、教員全体に周知している。中間評価実施により、後期の活動に生かしている。
	3	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、評価結果をもとに改善計画を策定しているか	☐ 評価結果を教職員に周知している ☐ 評価結果をもとに改善計画を策定している ☒ 中間評価との関連で改善計画を見直している	3	評価結果を教職員で共通認識し、中間評価との関連で改善計画を見直している。
	4	各リーダーがそれぞれのチーム（学年・領域・委員会）をまとめ、チーム力を発揮し、問題解決にあたっているか	☐ リーダー会や教育委員会など、学校運営上の重要事項検討および、共通認識の場として機能している ☐ 人材を適材適所に配置する工夫を行っている ☒ 各チーム内だけでなく、全職員間で連携やコミュニケーションをとる機会を設けて機能している ☒ チームの活動内容を随時全職員間で共有し、可視化している。	3	教育委員会で各チームの会議内容が説明されている。議事録も添付されており、チームの取り組みが可視化できるようになっている。チーム間では会議を開き、必要時情報共有し、問題解決にあたれた。また次年度から運用の「領域リーダー会運用内規」を定める。
II 教育課程・教育活動	5	卒業時において持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか	☐ 看護師として身に付けておくべき資質が、知識・技術・態度の側面から明文化されている。 ☐ 教育目標を学生に説明する機会を設けている ☐ 教育目標の到達状況を教員間で確認する機会がある。 ☒ 教育目標に照らし、卒業時の到達度を評価している	3	シラバスの見直しを行いながら、教育目標を確認している。教育目標がシラバスに記載されており、学生、教員ともに確認することができる。
	6	学習内容は教育理念・教育目標との一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか	☐ 教員全員で教育課程を検討する場を設けている ☐ 理念、目的、目標と一貫性のある内容となっている ☐ 社会情勢にあわせた内容を含んでいる ☐ 教育課程評価を行い、結果を次年度に反映させている ☒ 学校の独自性が盛り込まれている ☒ 時代の要請に応じて、必要時、修正している	4	ワークショップ等で、社会の現状にあった教育ができるように検討していると思います。 次年度に向けてカリキュラムポリシーを設定するなど、時代の要請を意識した取り組みがされている。 コロナ禍の中で必要な学習内容・学習方法を随時検討している。チーム医療を動いている大学・当校の独自性が盛り込まれている
	7	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしている	☐ 内要が具体的である ☐ シラバスに示された内容を実施している ☐ 1単位（30時間）につき、担当者を3人までにしている（専門基礎を除く） ☒ 前年度の評価結果（前年度領域のまとめ、授業評価アンケート等）を参考に、各領域担当で授業案を検討している ☒ 実施結果や学生の反応を踏まえて見直しを行っている	3	シラバスは具体的な授業内容が記載されている。各教員で実施結果や学生の反応を踏まえ、授業の見直しを行っている。
	8	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している	☐ 時間割作成時に授業担当教員と調整をしている ☐ 時間割は学生の状況に合わせて作成している ☐ 学習の順序性を考慮した時間割となっている ☐ 学生への時間割発表は1か月以上前に行っている ☒ 学生への時間割発表は3か月以上前に行っている	3	今年度は、3ヶ月以上前は難しかったと思うが、可能な範囲で早めに伝達していた。新型コロナの影響により、時間割が変更となった場合も、状況に合わせて再作成し周知できていた。次々年度からは、電子シラバスが導入予定であり、簡便になる。
	9	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか	☐ 領域で授業案を検討している ☐ 領域で実習指導案を検討している ☒ 学校や領域として授業評価の結果を分析し、授業内容や指導方法に反映させている ☒ 全教員が2回以上の授業公開を参観している	4	領域で授業・実習指導について検討されている。今年度、授業公開に2回以上参加できた。 授業ごとの評価をタイムリーに把握することが可能となり、授業改善をすぐにできるようになっている。

2020年度 自己点検・自己評価 結果

評価基準：不適切・・・1、やや不適切・・・2、ほぼ適切・・・3、適切・・・4

大項目	番号	評価項目	評価の視点 □：普通レベル ■：加点に値する視点	評価点	分析・対策
教育課程・教育活動	10	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう、工夫・改善しているか 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか	☐ 教員は初回授業で科目目標、評価目標等を学生に説明している ☐ 教員は不合格科目の分析をしている ☐ 実習において教員は学生に不合格の理由を説明している ☐ 教員は学生が不合格となった理由を自己分析するよう、指導している ☒ 教員は学生の自己分析結果に基づき、対応策を学生と検討し、指導している ☒ 成績不振者を対象として定期的な学習会等を実施している	3	学生の自己分析結果を参考に面談等通して指導の場を設けている。 登校する機会が減り、成績不良者に対して定期的な学習会の開催が難しい側面があり、定期的な学習支援については、今後の課題ととらえている。
	11	実習目標が達成されるよう、実習環境が整備されているか	☐ 実習先にCFルームや学生が記録や学習をする場所が整備されている。 ☐ 学生の学習を促進するための図書等が実習施設に整備されている ☐ 学生が実習中は、指導者が毎日勤務し、学生指導、教員との連絡調整、力 ☒ 実習指導者が固定（1週間程度）病棟を選択している ☒ 同じ診療科の実習場所に重複して行かないよう実習病棟が確保されている ☒ 教員の専門性が活かされた体制になっている	3	コロナ感染予防対策として、3密を避けるために、実習病棟への実習日数・学生数の調整が行われ感染予防対策を優先に実習環境が整えられた。 コロナ禍に可能な範囲で実習病棟が確保されていた。 途中で中断することもあったが、実習のまとめで補足できた
	12	実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し、実習指導にあたる体制があるか	☐ 定期的に指導者会を開催している ☐ 指導者と教員の事前打ち合わせ、事後反省会を行っている ☐ 学生の日々の学習内容や指導方法について、教員と指導者で常に意見交換している ☒ より質の高い実習指導体制を整えるために、指導者と教員が参加する学習会が企画されている ☒ 実習科目ごとに指導要項を作成して実習施設にも配布し、活用している	3	学習する環境は整備され、指導者・教員ともに連絡調整を行っている。実習日数が減少したことに伴い、指導者と連携をとり、互いに協力し合って行った。指導者会は、オンライン上で開催したが、対面での開催時に比べ、十分に意見交換ができなかった。今後は、方法などを検討していく。
	13	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれている	☐ 評価基準を書面で提示している ☐ 評価方法及び評価結果を学生に説明している ☐ 模範解答が一定期間掲示されている ☒ 領域で試験問題が検討されている ☒ 演習や実習の評価を複数で行うよう努力している ☒ 演習・実習について公平・妥当な評価を目指し基準の見直しを毎年行っている	3	点数化になったが評価基準があり、また、3者で評価することで公平化・妥当性が保たれていると考える。 領域内で試験内容等確認している。実習不合格者が出そうなときは、領域で情報を共有し対応を行った。 試験問題の検討を行い実施している。
	14	実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか	☐ 患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成している ☐ 受け持ち患者に説明し、事前に同意を得ている ☐ 患者への倫理的配慮について指導を行い、学生は倫理に基づいた言動を心掛けている ☐ 倫理的な事柄に関連した患者からの苦情申し立てがない ☒ 学生が受け持つことについて患者（家族）から文書による同意を得ている	4	今年度より、学生が同意を得ようになり、また、倫理的配慮に留意して実習を行えている。
	15	実習時のインシデント、アクシデント等を分析し、学生指導に活かしているか	☐ インシデント等発生時のマニュアルを作成している ☐ 実習前後に安全教育を実施している ☐ インシデント等の情報が速やかに報告され、教員間、学生間で共有している ☒ 学生が関係したインシデントについて、分析し再発防止に取り組んでいる ☒ 実習科目ごとに安全カンファレンスを実施している	3	医療安全教育や実習前の指導を行っている。レポートは保管されているが、内容の共有が不十分な点があった。 * 次年度からリーダー会に、インシデント・アクシデントの報告をいれていく。
	16	学生による授業評価および教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか	☐ 専任教員は全員が授業評価を実施している ☐ 専任教員は全員が自己評価を実施している ☐ 非常勤講師に対して協力を依頼し、授業評価を実施している ☐ 学生および実習施設に、結果を伝えるシステムがある ☒ 評価結果について学生と意見交換している ☒ 各領域で評価結果を共有し、次年度に向けた改善計画を明文化している	3	学生アンケートを集計し、次年度の課題を明確にしている。 学生による授業評価、自己評価、授業参観による他者評価の結果をもとに、授業内容の改善に役立てている。

2020年度 自己点検・自己評価 結果

評価基準：不適切・・・1、やや不適切・・・2、ほぼ適切・・・3、適切・・・4

大項目	番号	評価項目	評価の視点 □：普通レベル ■：加点に値する視点	評価点	分析・対策
Ⅲ 入学・卒業対策	17	より多くの応募者を確保することに努めているか	☐ 学校説明会は参加者の利便性（曜日、時間）を考えて開催している ☐ 各高等学校等に出向き学校案内を行っている ☐ 指定校推薦校に出向き学校案内を行っている ☒ 学内に「学生確保プロジェクトチーム」等を設置し、前年度結果を分析し、計画的な確保対策を実施している ☒ 入学者の出身高校等に学生生活の様子を報告している	3	新型コロナ禍の中でも、WEBでの学校説明会を行うなど学校案内を行った。 コロナ禍での状況に合わせた内容で、確保していた高校訪問も必要時で向いていた。
	18	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか	☐ 各学年に対する指導方針が明確である ☐ 国試対策委員会を作っている ☐ 前年度不合格者に対して、指導、情報提供を行っている ☐ 国試の合格率が全国平均を上回っている ☒ 国試の合格率が100%である ☒ 学校独自の工夫をしている	3	コロナ禍であったが、状況に合わせ対策を変更した。3年生に関しては教育委員会において情報共有できていた。後期は、国家試験対策に向けた取り組みがより可視化され取り組んだ。合格率100%を達成した。 2,3年生への国家試験対策の情報共有が不明な点があった。次年度、可視化できるよう取り組む。
	19	質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っているか	☐ 個別面接によるきめ細かい指導を行っている ☐ 必要に応じ学生とその保護者との三者面談を行っている ☒ 課外時間を活用した技術指導時間を確保している ☒ 今年度の退学者が全学生の2%以下である	3	zoomなどの活用で今年度は年3回の面談は全ての学生に実施できている。 今年度は、マンダラチャートの面談を定期的実施したこと、個別面談による指導が徹底された。必要時三者面談を行った。
	20	卒業生への支援を行っているか	☐ 卒業後にホームカミングデイを実施している ☐ 卒業生への就業継続への支援事業を行っている ☐ 卒業生も図書室を利用することが可能である ☒ 既卒者、中途退職者に対し就職相談にのるシステムがある	2	コロナ禍の状況では図書室の利用など、制限が生じ支援が十分でなかった。相談行動にきた卒業生には対応をしている。国家試験不合格の卒業生に支援を行っている。ホームカミングディなどは、コロナ後の開催を検討する。
	21	卒業生の大学病院就職率を高めるよう努力しているか	☐ 入学時から大学病院への就職に向けてガイダンスを行っている ☐ 学士入試および推薦入試入学生の大学病院就職率が95%程度である ☐ 就職者に占める大学病院就職率が85%程度である ☐ 進路指導において、大学病院の募集情報を収集し、学生に提供している ☒ 就職者に占める大学就職率が95%程度である	4	入学時から就職活動ガイダンスがあり、聴講した学生の意識が高まった。 就職ガイダンスや面接練習を行っている。 キャリア支援室の活動により、強化された。
Ⅳ 学生生活への支援	22	進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか	☐ 進学、就職に関して相談に応じるとともに、情報を提供している ☐ 進学、就職のための面接、論文指導を行っている ☐ 就職説明会を実施し、就職先選択の支援を積極的に行っている ☐ 「就職ガイダンス」を活用している ☒ 卒業生を学校に招き、先輩との就職懇談会を実施するなど直接職場の様子を聞ける場を設けている ☒ 卒業生の来校時等に就職先の情報収集をし、適宜、在校生に情報提供している	3	キャリア支援を通じて、情報が提供され、面接・小論文対策も行った。 先輩との就職懇談会を予定していたが、コロナにより中止となった。次年度はオンラインでの開催を検討する。
	23	経済的、精神的側面からの支援体制が整い、効果的に活用しているか	☐ 奨学金、授業料減免など、経済的支援の相談に応じるとともに、情報を提供している ☐ カウンセラーの存在、役割を学生に周知している ☐ 必要に応じ学生の同意のもと、カウンセラーと連携をとっている ☐ カウンセリングが必要と思われる学生に、教職員からカウンセリングを勧めている ☒ カウンセリングを受けていることのプライバシーが守られている ☒ 専用のカウンセリングルームを設けている	4	コロナ禍における学生支援の研修を行った。 前半は必要な学生に大学から経済支援が行われた。 学生相談室などの紹介も必要時行い、カウンセリングも必要時は個別対応し、つなげている。
	24	学生の身体的側面の健康確保に努めているか	☐ 健康診断後の指導、相談がなされている ☐ 適宜、校医と情報交換をしている ☐ 敷地内は完全禁煙になっているとともに、禁煙教育を行っている ☐ インフルエンザなどの感染予防対策について、周知啓発している ☐ 教員等は必要時、慢性疾患等のある学生の情報を得て、指導している ☒ 校医による健康相談日を設定している ☒ 保健室は男女別に設けられている（2つ以上ある）	4	適宜、保健管理センターと情報交換し、指導による対応が徹底されていた。インフルエンザ予防接種も徹底することができた。 学生に定期的な健康報告を行ってもらい、必要時対応を行った。
	25	サークル活動など学生の自主的な活動を支援しているか	☐ 学生のサークル活動など自主的な活動の支援体制が整っている ☐ サークル活動など自主的な活動を行うための場所や物品を整備している ☐ サークル活動の登録制などで、学校として自主活動を把握している ☒ サークル活動の発表や他校との交流の場を設けることを支援している	2	希望者は大学のサークルに入ることができ、今年度はサークル活動は中止となり、活動の不足は止むを得ない状況であった。

2020年度 自己点検・自己評価 結果

評価基準：不適切・・・1、やや不適切・・・2、ほぼ適切・・・3、適切・・・4

大項目	番号	評価項目	評価の視点 □：普通レベル ■：加点に値する視点	評価点	分析・対策
V 管理運営・財政	26	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか	☐ 年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている ☐ 計画的に設備備品の充実などを行っている ☐ 授業料等の滞納がほとんどない ☒ 組織的に経費の節減対策を行っている	3	11月の会議で、事務長から予算計画や今後の年間事業計画に関し、説明があった。 次年度の予算案を分野・委員会・学年から提出し計画的に運用している。
	27	学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか	☐ 学校が保有する個人情報を周知するとともに、個人情報保護宣言を行っている ☐ 学生の実習記録に管理についてルール化してある ☐ 個人情報「福祉保健局における情報資産の取り扱いに関する安全管理指針」に従って管理されている ☒ 共有データ(USB等)は学外に持ち出さないよう管理している ☐ 教職員対象に人権・個人情報保護に関わる職員研修を行っている ☒ 倫理委員会を設置し、個人情報保護や倫理的配慮が必要な問題について検討を行っている ☒ パワーハラスメント対策等、学校独自の取り組みをしている	3	個人情報保護法についての指導は学生にも周知させている。 個人情報の保護に努め、学外に持ち出さないよう管理した。 学生は記録提出時にはパスワードをかけ提出している。
	28	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか	☐ 危機管理マニュアルを作成し、随時見直している ☐ 総合防災訓練を年1回実施している ☐ 不審者の侵入に対し、監視体制が整備されている ☐ 教職員の緊急連絡網をもとに連絡訓練を年1回行っている ☒ 学生災害時の食糧・飲料水を3日分備蓄している ☒ 防犯・交通安全講習会など開催し、学生に受講させている ☒ 簡易トイレ、寝具を備蓄している	2	金融詐欺被害防止の講習を行った。 学生寮の避難経路、避難場所の再確認を行いマニュアルを修正した。また、学校内のセキュリティを強化した。 防災や交通安全の講習はコロナ禍により中止のまま実施できていない。
	29	学校運営に学生の意見が反映されるよう努めている	☐ 学生の意見や要望を聞く場を設け、意見箱を設置している ☐ 意見要望について、学内の会議で対応策を検討している ☐ 意見要望への回答を必要に応じて公開している ☒ 意見や要望に基づいた改善を行っている	3	授業に関しては授業評価内のコメントをもとに意見を反映できている。 意見箱が設置されているが、活用されていない。次年度は、活用できるように運用方法を再検討していく。
VI 施設・設備	30	施設・設備の安心、安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。	☐ 耐震基準をクリアしている ☐ 車いすでの利用可能なトイレ・スロープを設置している ☐ 校舎にエレベーターを設置している ☒ 構造上変更できない部分を他の方法で補う努力をしている	3	車椅子での利用可能なトイレ、オストメイト、校舎にエレベーターを設置している。
	31	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか	☐ 教育目標の達成に必要で適切な教材が整っており、活用されている ☐ 車いすでの利用可能なトイレ・スロープを設置している ☐ PCは授業時一人1台使用できるよう整備している ☐ 学生の自主的な学習のために、教材や施設・設備を活用させている ☒ インターネット検索のできる学生用PCが3台以上ある	3	学校での一人1台の電源の確保は難しく、PCは学生個人が準備する形となっている。オンライン学習の環境はグーグルクラスルームなどを活用し、整備されている。技術に関してはナースィングスキルを導入し、活用している。
	32	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか	☐ 学生が自由に使用できるホールがある ☐ サークル活動などができる場所がある ☐ 学生用の施設は、時間外にも使用できる ☒ 可能な範囲で長期休業日にも利用可能となっている	2	新型コロナの影響により学生が自由に使用することが困難な状況であり、3年生には、学習の場として、11月から2月まで16号館を希望者に開放した。 本来であれば、借用願いを提出すれば、施設は自由に使用できる体制がある。
	33	図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか	☐ 図書室の利用促進のための情報提供など必要な措置を講じている ☐ 蔵書・雑誌について、定期的に廃棄等処理を行っている ☐ 長期休業中の利用・時間外利用を認めるなど図書サービスの向上に努めている ☐ 計画的に新刊書を購入し学生へ最新の知識・情報の提供に努めている。 ☒ レファレンスサービスを行っている ☒ 定期的に図書だよりなどを発行している ☒ 蔵書が1万冊以上ある	3	図書室に司書がおり、図書室の管理・運営がされている。今年度は、コロナ禍で利用日に制限があった。 図書館は登校日、申し出により使用可能とした。随時新刊が入る。雑誌数が多く、最新の情報を入手しやすい。利用時間を拡大し、学生が利用できるようにしている。
	34	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか	☐ 学生数に応じたスペースが確保されている ☐ 指定規則、別表九に定められた備品・設備が整備されている ☐ 備品・設備の点検を定期的に行っている ☐ 学生が備品・設備を学習のために使うことができるためのシステムが確立している ☒ 特別な設備・備品（デモコーナー・移動リフトなど）が整備され、活用されている	3	学生が密にならない様に、人数も制限し、スペースをとり行っていた。 今年度は、コロナ禍において活動制限があり使用数が限定されていた

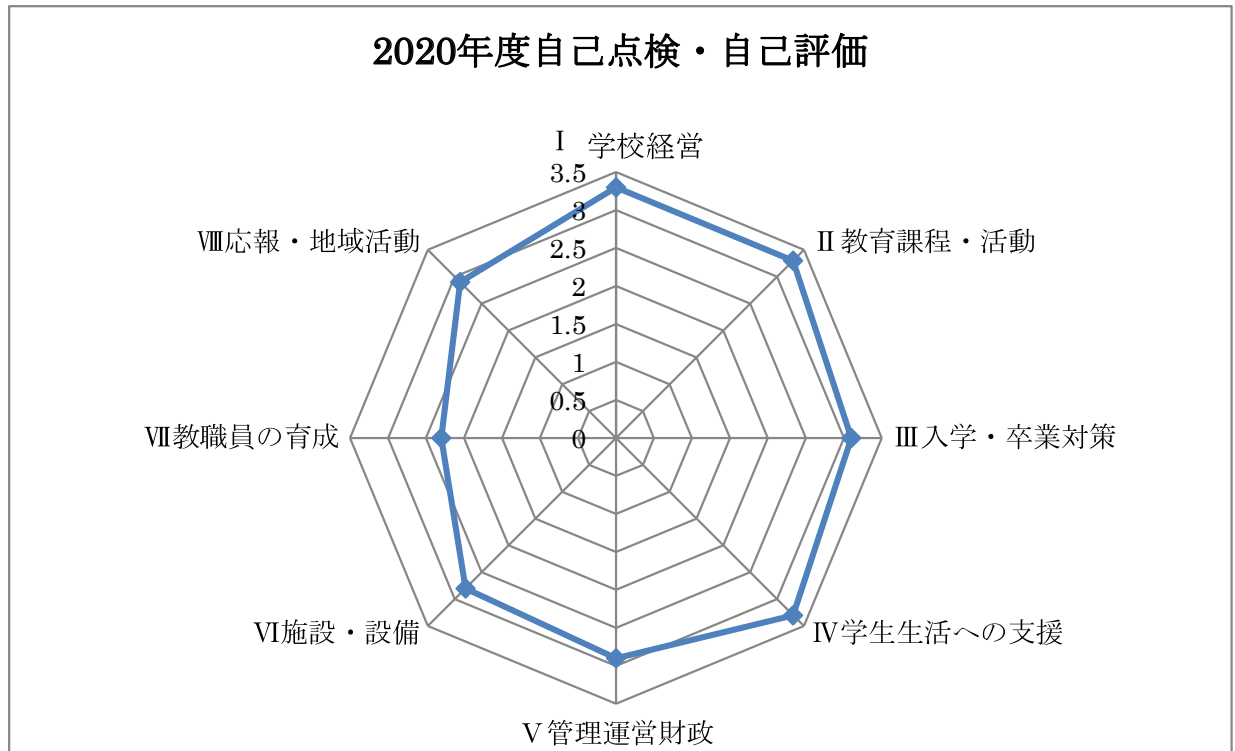
2020年度 自己点検・自己評価 結果

評価基準：不適切・・・1、やや不適切・・・2、ほぼ適切・・・3、適切・・・4

大項目	番号	評価項目	評価の視点 □：普通レベル ■：加点に値する視点	評価点	分析・対策
VII 教職員の育成	35	学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っている	☐ 課題に沿った研修を企画している（内容・講師・日程・時間数など） ☐ 教職員の90%以上が参加している ☐ 他校にも参加を呼び掛けている ☒ 他校から参加者がいる	3	新カリキュラムに関するオンライン研修をアナウンスし、全員が参加した。 Webでの研修等に参加している。 他校とは遠隔で、授業や実習の取り組みを話し合えた。
	36	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがある	☐ 教員が参加しやすい日に伝達講習が計画されている ☐ 公費学会参加者は全員が伝達講習を実施している ☐ 伝達講習の内容を組織的に教育に取り入れている ☒ 自費で学会参加した人も伝達講習をしている	2	今年度は、他の教員が研修・学会に参加している状況が見えにくく、学会参加後の伝達講習の機会も設けられなかった。次年度は実施できるように方法を再検討する。
	37	教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか	☐ 短期臨床研修の参加者は当該年度10%程度である ☐ 3年程度を目途に各教員の臨床研修計画を立てている ☐ 当該年度、臨床研修への参加者希望者全員が研修に参加できている ☒ 長期臨床研修に参加できるように参加できるように参加予定者の業務分担等が考慮されている ☒ 5年以上臨床から離れている教員は全員臨床研修を終了している	2	今年度はできていないが、次年度に向けて企画がされている。
	38	教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか	☐ 教員の80%程度が研究調査活動に参加している ☐ 研究調査日を活用しやすい環境がある ☐ 「授業研究」が行われる全領域に1名の参加者がいる ☒ 教員の90%以上が研究調査活動に参加している	2	教員は授業作成や日々の業務に追われ研究活動を行う時間は確保できておらず、環境は整っていない。 研究活動を行えるような体制が整っていない。
	39	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度がある	☐ 学内授業の参観日を計画している ☐ 教員が授業研究に参加できるように計画している ☐ 教員の90%程度が授業公開をし、実施後の評価会を行っている ☒ 全教員が授業公開をし、授業後の評価会を行っている	3	オンデマンドでの聴講で、時間が確保しやすかった。授業公開を行い、リフレクションも行った。また他校との領域分科会にて情報交換を行った。
	40	専門領域認定が受けられるような支援体制が整っている	☐ 専門領域認定のために臨床研修に参加できる仕組みがある ☐ 可能な範囲で専門領域に配慮した領域配置が行われている ☐ 専門領域認定者が50%程度である ☒ 専門領域認定者が60%以上である	2	支援体制は整っていないが、評価項目の妥当性を次年度に向けて検討する。
VIII 広報・地域活動	41	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか	☐ 昨年の評価を活かした広報計画を年度当初に策定している ☐ ホームページは受験生が求める情報を掲載している ☐ ホームページは定期的（年6回程度）に更新している ☐ ホームページは卒業生に必要な情報を掲載している ☒ ホームページは年10回程度更新している ☒ ホームページはトップ画面から必要項目に入りやすい作りになっている ☒ 広報活動の結果、説明会参加者増、受験生増となっている	3	ホームページを活用し、必要な情報提供を行った。行事後などインフォメーションに投稿され、学校の様子を紹介していた。閲覧数は昨年よりも少なかった。 ホームページは、定期的に更新されて、学生へもわかりやすく提示している。受験者数も、大きな減少はない。
	42	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか	☐ 地域住民を対象にした公開講座を年1回実施している ☐ 地域のボランティア活動への参加を促している ☐ 学校祭等学校行事に地域住民等が参加している ☒ 地域住民等との連絡会等を持っている ☒ 学校として地域の団体等の行事に参加している ☒ 地域の小中学校の教育活動に協力している ☒ リカレント教育として実習病院や近隣学校教員等に授業を公開している	2	今年度は、ボランティア活動を計画していたが、コロナにより地域との活動はできなかった。 公開講座やボランティア活動、学校祭などは行っていない。 今年度は、多くの行事が中止になっていたが、地域の小学校への教育訪問が行われていた。

2020年度 自己点検・自己評価 結果

評価基準： 不適切・・・1、 やや不適切・・・2 、 ほぼ適切・・・3 、 適切・・・4



評価結果

I 学校経営	3.3
II 教育課程・活動	3.3
III 入学・卒業対策	3.1
IV 学生生活への支援	3.3
V 管理運営財政	2.9
VI 施設・設備	2.8
VII 教職員の育成	2.3
VIII 広報・地域活動	2.9

総括：

1. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本来の教育活動が遂行できず、昨年比で全体的に評価が低下した。
2. 「教職員の育成」は評価が低く、今年度実施できなかった臨床看護研修を実現すると共に、教員の学会・研修報告の復活やラダー評価などの強化を最優先事項として取り組んでいく。